

令和 8 年度 市政懇談会 開催議事録

開催日時：令和 8 年 8 月 3 日（月）午後 6 時～7 時 30 分

開催場所：笠間市商工会 本所

出席者：35 名

《意見交換》

- 1 イベント（ふるさとまつり）について
- 2 創業支援について
- 3 交流人口を増やすための取り組みについて
- 4 プレミアム商品券の発行について
- 5 空家、空地、空き店舗対策について
- 6 エアコン及び電気冷蔵庫の買い換え補助について
- 7 店舗や一般家庭の LED 補助について
- 8 建設業の現状について
- 9 子育て・高齢者支援や健康への取り組みについて
- 10 笠間の栗について
- 11 観光資源の開発について
- 12 イベント時の渋滞や駐車場の確保について
- 13 若い方への支援について
- 14 市内各所の回遊について
- 15 フィルムコミッションについて
- 16 安心して商売を行うことができる環境づくりについて
- 17 友部駅周辺について
- 18 つながるマルシェについて
- 19 友部駅南北自由通路へのピアノの設置について
- 20 インターチェンジ付近の開発について
- 21 広域連携について

1 イベント（ふるさとまつり）について

【意見等】

商工会としてもしっかりイベントを開催していくが、今後、市が望むべき姿があれば教えていただきたい。

【回答】

ふるさとまつりは、消費者に対する還元的な意味合いで開催していると思うが、市も協力するので、場所も含めて内容を多少変えながら継続していただけたことがよいと思う。

2 創業支援について

【意見等】

市ではさまざまな取り組みをしていると思うが今後どのように進めていくのか。また、現在は対象が門前通りで創業する方に限られているが、門前通りだけではなく、他のエリアで創業したいという方もたくさんいると思う。創業者が増えれば笠間市に新しい風が吹いたり、税収も増えたり、とても重要なことであると思う。創業支援についてはさらに力を入れていくべきで、他市でも税収がかなり増えているところがある。市と商工会がしっかり連携しながら仕組みをつくっていくことが重要だと思う。

【回答】

創業したい方については、創業支援に関する補助を実施している。現状は門前通りだけではなく、友部・岩間・笠間地区の都市機能誘導区域を対象としており、笠間地区の場合は門前エリアも入っているというもの。そこに対する支援を今年から 300 万円を上限にスタートし、それ以外の地域は 50 万円という制度である。現在、募集中であるが、実際、手を挙げている方はいない。都市機能誘導区域を撤廃して、市内全体にということで、来年以降はオール笠間での創業支援を充実していきたいと思う。創業したい方への支援や、相談業務をどのようにしていくかということが課題の一つであり、さまざまな支援制度を実施する中で勉強会なども開催している。単純に補助金を出すだけではなく、見直しを進めていきたい。

3 交流人口を増やすための取り組みについて

【意見等】

話題性のあるまちづくり、大学誘致や笠間城跡の復元、畜産試験場跡地や県立中央病院跡地の問題などをどのように考えているか。

【回答】

交流人口の拡大などは必要であると思うので、畜産試験場跡地や県立中央病院跡地についても、今後、県と市で議論をしながら進めていきたいと思う。

4 プレミアム商品券の発行について

【意見等】

困っている方に早く届けるという意味では大変よかった。事業者側としても感謝している。今後も商品券事業を実施いただきたい。

【回答】

発行は社会状況を見ながら適切に対応していきたいと思う。

5 空家、空地、空き店舗対策について

【意見等】

空地バンクに登録されている物件についても、何らかの補助などがあるとよいと思う。また、空き店舗バンクも開始されたが、PR 不足のためか、知らない方が多いと感じる。

空家バンクを使い移住される方は、65 歳ほどの方が多い。子育て世代に移住していただかないとまちの活性化や税収アップにつながらないと思うので、子育てしやすいまちとしての PR など、若い方を取り込める方法を考えてもらえるとよいと思う。

【回答】

さまざまな制度があるので、しっかりとPRしていきたいと思っている。関心をもって市の施策見ていただきたいということが、市としての考えである。

6 エアコン及び電気冷蔵庫の買い換え補助について

【意見等】

エアコンについては、省エネ基準が著しく上がり、高額な機種でないと対象にならないという場合もある。また、子ども部屋や寝室など狭い部屋に設置するエアコンについて、最上級の機種と省エネ基準を達成しない通常の機種の年間の電気代の差はあまりない状況で、ランニングコストを考えると補助を受ける方の負担はあまり変わっていないと思う。なぜ省エネの基準を達成しないと補助の対象にならないのか。また、前回利用した方は今回補助を受けられない理由を教えてください。

【回答】

国の物価高騰に対応するための交付金を活用し補助を実施している。市民の負担軽減のみならず、気候変動対策にも貢献できるよう、国からの通知などになって基準を設定している。また、前回利用した方については、広く皆さんに利用していただきたいということから対象外としている。

7 店舗や一般家庭のLED 補助について

【意見等】

市で集会所に設置されているLEDに対する補助を行っているが、店舗や一般家庭のLED 補助についても検討してほしい。リフォーム補助金などでカバーできるところもあるが、小さな商店などは補助金の対象とならないところもある。対象にならない部分を市として支援してほしい。

【回答】

今後そのような事業を実施するかについては未定だが、実施する際には、きめ細やかな配慮をもって進めていきたい。

8 建設業の現状について

【意見等】

他の業種も同じだが、左官や板金などを中心に後継者不足や人手不足の状況が見られ、直近では世界情勢の影響を受けて、建設資材の不足や、原材料費の値上がりが見られる現状もある。建設業そのものを市の地場産業ととらえて、支援や後継者の育成をしていただきたい。リフォーム補助金については、市民にも市内の建設業にも大きなメリットがある。ぜひ今後も継続してほしい。

【回答】

リフォーム補助金については、補助額を検討しながら継続していきたいと思う。地域産業振興の観点からもしっかりと取り組んでいきたい。また、後継者や人手不足への対応をどのようにしていくかということについては、外国人の受け入れ支援など、現在実施しているものもあるが、来年度以降に向けて、具体的な支援を検討していきたい。

建設業に限らず、商売をしている方が、後継者を探したいということであれば、その受け皿となるのが、市や商工会であると思っている。市や商工会が一体となって後継者を募集したり、呼びかけたりして人材を確保していく仕組みをつくっていかねばいけないと思う。

9 子育て・高齢者支援や健康への取り組みについて

【意見等】

若者が東京などに出ても安心して帰ってこられるような制度があったらよいと思う。また、高齢者も多いので、高齢者も元気な笠間市になればよいと思う。

【回答】

子育て支援と少子化対策、健康づくりをしっかりとやっていきたい。特に健康づくりは年齢を問わず、来年度から新しい事業を検討しているところである。今後もしっかりと継続していきたい。

10 笠間の栗について

【意見等】

笠間の栗のブランド化で多くの集客があり、ブランドイメージも上がっている。ブランドイメージをさらに拡大させるために、名物をもっとつくる方法を考えているが、市と連携して幅広くやっていきたい。製品開発に対する支援なども、より強化してほしい。

【回答】

新商品の開発や生産体制の維持、品質の向上を含めて、栗のブランド化については引き続き取り組んでいきたい。

11 観光資源の開発について

【意見等】

さまざまなところと連携し、体験ツアーや陶芸ツアーなどを企画し誘客につなげていただきたい。観光業は幅広い雇用がある。官民一体で雇用を含めた産業育成をしていけば安定的な発展ができると思う。

【回答】

観光はひとつの地場産業でもあるため、しっかりと取り組んでいきたい。

12 イベント時の渋滞や駐車場の確保について

【意見等】

イベント時、生活道路の渋滞などがかなりあるため、渋滞対策について、市道を含めて検討していただきたい。また、観光客の駐車場を探す時間を減らしたり、アクセスを改善したりするなど、地域住民の日常生活にも影響が少ないように対策していただきたい。

【回答】

渋滞対策に取り組んでいることもあり、以前よりも交通が円滑になってきた部分もある。駐車場については、今年度から笠間観光協会と連携しながらアキッパ（駐車場シェアサービス）を活用し渋滞緩和を図っている。そのようなことをしながら対策をしていきたい。

13 若い方への支援について

【意見等】

最近、若い方が地元に戻ってこないことが非常に多い。一度、市外に出た方も笠間市に戻ってきたいと思えるような補助金があるとよい。また、鉄道定期券の補助なども行えば、たくさんの方が笠間市に集まると思う。年齢問わず人が増えるまちになってほしい。

【回答】

地元に戻ってきた若い方を対象とするリフォーム補助金のようなものがあってもよいと感じている。若い方が地元に戻る仕組みづくりが将来に向けて重要であると思う。

1 4 市内各所の回遊について

【意見等】

笠間市は魅力的な場所がたくさんあるが、観光に来た方を市内各所に回遊してもらいたい仕組みをつくっていただきたい。また、魅力ある場所であると感じるかどうかは、駅に降りたときに決まると思う。エントランスに魅力があるかということは大切であり、そこから郊外に人の流れを広げていくことが必要であると思う。

【回答】

人の流れをつくることは大切であると思う。また、駅前が市の顔になっているかということ、いろいろな意見があるので、特に友部駅前、まちづくりの拠点として、これから本格的に取り組んでいこうと思っている。

1 5 フィルムコミッションについて

【意見等】

笠間市がロケ地になるように取り組んでいただきたい。

【回答】

フィルムコミッションなどでの市内の撮影は、比較的多い状況であると思う。さまざまな場所があり観光にもつながると思うので、しっかりと取り組んでいきたい。

1 6 安心して商売を行うことができる環境づくりについて

【意見等】

笠間市商工会会員は2,000名近くいる。そのうち7割は個人事業主で3割が法人である。農業をするにもこの地域は事業団が少ない。物価高の時代なので、同業者がスクラムを組んで商売をしていかないと税収も安定しない。市も商工会も、企業の数ではなく企業を大きくし、有利に商売を展開できるような環境づくりが必要だと思う。

【回答】

会社の大きさは、どの位の規模がよいかは業種によっても異なるが、一定の規模感が必要であると思う。農業は一人で始めても、規模拡大によって法人化して収益をあげているような事例もある。規模感を大きくしていくことへの難しさはあると思うが、規模拡大に対する何かしらの支援は必要であると感じている。

17 友部駅周辺について

【意見等】

観光客がはじめて友部駅に降りたときに友部駅周辺を見て、笠間市が素晴らしいまちというイメージが湧くだろうか。駅前のロータリーができて良くなったが、周りのお店、土産店などが少ないと以前から感じている。

【回答】

友部駅は笠間市の中心である。駅前や市役所周辺も含めて、そのエリアのまちづくりを今年から本格的に検討していく段階である。まちづくりは住民の協力がないと進められないので、行政としては丁寧に説明していく必要があるが、住民にも一体となってやっていく意識をもってもらうことが必要だと思っている。

18 つながるマルシェについて

【意見等】

友部駅前で「つながるマルシェ」を開催しているが、若年層を含め、たくさんの方にもに来ていただき、何かを仕掛ければそれなりに人が集まると実感した。笠間市はすごく魅力があると思う。

【回答】

「つながるマルシェ」は市も協力しながら今後も続けていきたいと思う。

19 友部駅南北自由通路へのピアノの設置について

【意見等】

友部駅南北自由通路の空間にピアノを設置してほしい。そのようなところから、魅力を高めたらいいと思う。

【回答】

ピアノはひとつの案として、通路の利活用は考えていきたいと思う。

20 インターチェンジ付近の開発について

【意見等】

高速道路のインターチェンジを降りてすぐに工業団地などがあることはよいが、それ以外に都市機能のひとつとして、便利な施設などがあれば、観光客などにもメリットがあると思う。

【回答】

以前はインターチェンジができると周辺の開発が進むということがあった。現在、笠間 PA スマートインターチェンジの整備を進めているが、地域の方からはスマートインターチェンジの周辺に何かできるのか、計画はないのかといった意見もある。交通の利便性ではなく、スマートインターチェンジができることで周辺開発が進むのではないかと期待感をもって見ている方がいるというのは事実だが、以前と違いインターチェンジができることが周辺開発につながるというのは地形的な状況も考えると難しい。スマートインターチェンジをどう活用していくかは考える必要がある。

2 1 広域連携について

【意見等】

笠間 PA スマートインターチェンジができれば、大きな動線が笠間市内にくると思う。旧笠間地区については、つくばと笠間を結ぶ幹線道路の中で道祖神峠トンネルが開通すれば、笠間からつくばへ 40 分で行けることになる。上曽トンネルの開通により、旧下館地区と石岡がものすごく近くなり、交通量も多くなった。その前には朝日トンネルも開通し、朝晩は渋滞ができるほどになった。それを笠間まで持ってくるのができれば、笠間 PA スマートインターチェンジと連携して太い動線ができるのではないかなと思う。費用対効果を考えると難しい部分もあると思うが実現できないものか。

また、これからどのような都市づくりをするのかが非常に大切だと思うが大きい動線ができれば、別の展開ができると思っており、県に強く要望をお願いしたい。

【回答】

トンネルがあれば、交通量が増えたり、都市と都市のつながりができたりすると思うが、費用の問題もあるため、引き続き県に要望をしていきたいと思う。合併特例債を活用して実施する予定はない。県道のため、県が事業主体として整備すべきということが私の考えである。今後、広域行政をどうしていくかは、水戸を中心とした都市圏で一緒になって県中央地区のまちづくりの連携を深めながらやっていく必要があると思う。都市間を結ぶ軸となる道路としてトンネルがあることは考えられることだと思う。笠間というよりもひとつのエリアの都市づくり、それをどうしていくのかは広域行政の中で話し合いをしながら、トンネルなどで結ぶことが今後、長期的な話の中で必要になると思う。